「白山自然保護調査研究会」平成27年度委託研究成果要約

１．白山におけるきのこ類の多様性と地理的分布に関する研究

代表者　糟谷大河
参加者　河原　栄
協力者　都野展子・畠中譲二・金津五雄・新田真之・星野　保

（研究項目１）

白山亜高山帯・高山帯におけるきのこ類の野外調査

平成27年度は，これまでの研究で調査が不足していた８月上旬に２回（８月１日～２日および８月８日～９日）の野外調査を行った。８月１日は中飯場から砂防新道と南竜道を経由し，南竜山荘まで歩いた。そこから展望歩道を歩いて調査を行い，室堂平に至った。室堂センターにて採集標本の写真撮影と乾燥処理を行った。２日は室堂平からお池めぐりコースで翠ヶ池周辺まで歩いて調査を行った。その後，五葉坂から砂防新道にて中飯場に至った。以上により担子菌15点のきのこ類の標本を採集した。

また，８月８日は中飯場から砂防新道と南竜道を経由し，南竜山荘まで歩いた。そこから石徹白道を歩いて調査を行い，油坂に至った。その後，南竜山荘にて採集標本の写真撮影と乾燥処理を行った。9日は南竜から室堂平周辺まで歩いて調査を行った。その後，五葉坂から砂防新道にて中飯場に至った。以上により担子菌17点のきのこ類の標本を採集した。

以上の野外調査により，これまで調査が不足していた８月上旬の白山亜高山帯・高山帯におけるきのこ類の発生状況について，その一端を把握することができた。

（研究項目２）

採集標本の分子系統解析および分類学的検討

野外調査により得られたきのこ類の標本の一部について，光学顕微鏡による形態観察と，核rDNAのITS領域の塩基配列情報に基づく分子系統解析を行った。その結果，ゴヨウイグチ，ワタゲヌメリイグチやハクサンムラサキハツ（仮称）など，高山帯のハイマツ・オオシラビソ林を特徴づけるイグチ類・ベニタケ類等の外生菌根菌が複数種見出された。また，亜高山帯～高山帯のオオシラビソの樹下からは，日本新産種の可能性があるキヒダタケ属菌*Phylloporus* sp.やアワタケ属菌*Xerocomus* sp.が採集・同定された。これらの日本新産種の可能性がある標本については，今後も引き続き詳細な形態学的・系統分類学的検討を行い，種レベルの同定を進める予定である。

２．白山東麓の降下火山灰層からみた白山火山の噴火活動

代表者　酒寄淳史
参加者　守屋以智雄
協力者　奥野　充・田島靖久

（現地調査）

白山の山頂から東側の地域には，一連の噴火によって堆積したと推定される降下スコリアからなる複数枚の火山灰層が分布している。これらの火山灰層は他の地域でみられるものよりも厚く発達しており，当時の噴火を詳細に記録していると期待される。しかしながらこれらの火山灰について，その詳しい分布や岩石学的性質，および噴火年代の特定につながる放射年代値は公表されていない。今回，大白川流域において野外調査を行い，白山山頂から東に約７km離れた地域において白山火山起源と推定される降下火山灰層を新たに見出した。これらの露頭は約5,000年前に発生した岩屑なだれ堆積物の上に載り，泥炭層や砂層によって構成され，スコリアを伴う火山灰層を挟んでいる。露頭の地質記載を行うとともに，泥炭試料および火山灰試料を採取した。

（分析調査）

山頂により近い東斜面でみられる降下スコリア層との対比および降下スコリアを伴う火山灰層の白山噴火史における位置づけを明らかにするため，現在，採取した泥炭試料の放射性炭素年代測定と火山灰試料の岩石記載の作業を行っている。